

## 令和4年度 アンケート結果のまとめ

- 以下の説明の際、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つの回答合計の割合を示す。  
(A評価…80%以上、B評価…60%以上、C評価…40%以上、D評価…40%未満)

### ◎ 学校経営

- ・過去5年を遡っても、各項目において、自己評価・学校関係者評価ともにA評価であり、校長の経営方針に従って、本校の充実した教育活動が評価されている。
- ・生徒アンケート項目「私は毎日充実した学校生活を送っている」の割合が92.2%、保護者アンケート項目「子どもは毎日充実した学校生活を送っていると思う」の割合が91.1%であり、本校の教育活動が充実したものとなっていることを示している。

### ◎ 学習指導

- ・「学習習慣の確立」の項目において、自己評価・学校関係者評価はともにA評価であるが、生徒アンケート項目「予習・復習をするようにしている」では43.1%、保護者アンケート項目「学習している姿を以前よりよく見る」では61.5%であった。家庭学習の充実において、タブレット端末を活用した取組みの検討が必要である。

### ◎ 生徒指導

- ・各項目ともにA評価である。特に、本校ではいじめに係るアンケート（年3回）を活用し、丁寧な個別面談を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努めていることが評価につながっている。学校運営協議会で、小学校の現状や先生方の変革を知る事ができた。引き続き、いじめの未然防止等の取組（啓発活動、アンケート等）を一層進めていく。

### ◎ 進路指導

- ・各項目ともにA評価である。保護者アンケート項目「学校は就職や進学に関する進路情報を十分に提供している」に関して、昨年度75.6%から本年度75.0%と伸びていなかった。生徒には提供できていても、保護者まで伝わっていない現状を改善する方策の検討が必要である。三者懇談会や保護者進路説明会、学校HPやTeams等の活用など、進路に関する情報が伝わるよう工夫していく。

### ◎ 特別活動等

- ・本校の大きな課題の1つと言える。教員の自己評価はB評価となった。令和2年度もB評価であった。おそらく、家庭事情や分掌業務等で顧問内の業務負担に偏りがあるため、協力体制とまでは言えない現状があると思われる。学校関係者評価においては、現場の先生方の意見を尊重してB評価となった。顧問内の業務負担の偏り改善策の検討が必要である。
- ・生徒アンケート項目「部活動にやりがいを感じている」に関して、5年前の67.0%から比べると、本年度73.1%であり、上昇傾向に思えるが、文化部のように活動日数が少ない部の生徒は「やりがいを感じる」までには至らないのではないかとと思われる。練習と休養のバランスを取りながら、また、家庭学習時間の確保も念頭に置きつつ、活動日数が少なくても、生徒がより高い目標をもって主体的・意欲的に取り組めるよう効果的な指導・支援の在り方を模索し、改善につなげていく。

### ◎ 学校図書館

- ・本校の大きな課題の1つと言える。本校だけではないかもしれない。教員の意識としては、司書を中心に、生徒の読書傾向を探り、特別企画を行ったり、図書・視聴覚教材を活用したりするなど、積極的に取り組んでいるためA評価となっている、しかし、生徒アンケート項目「月に1冊以上の書物を読む」が37.4%、「図書館を利用したことがある」が54.6%とかなり低い。
- ・SNSやスマートフォンの普及により、書物や新聞、漫画でさえ「デジタル化」が進んでいるため、わざわざ図書室に行って書物を手に取ることが少なくなる傾向にあることは言うまでもない。何かを調べるにしても、スマートフォンの検索機能を活用すれば、短時間で情報が手に入る時代である。その時代に逆らって、本の良さを伝えるにはどのような改善策があるか、検討が必要である。

- ◎ 保健・安全指導
  - ・各項目ともにA評価である。生徒アンケート項目「私は悩みや相談事があれば気軽に話せる先生がいる」において、5年前は48.4%であったものが、昨年度58.1%、本年度は60.1%となった。悩みを抱える生徒や支援の必要な生徒にとって、先生方が頼れる存在であり、保健室と学年が連携して、丁寧に対応してきた結果が徐々に出てきていると思われる。
- ◎ 人権教育
  - ・人権教育において、年間計画を緻密に立てて、新たな取組も取り入れながら、グループワークや講演会など、深い学びに向けて全職員で支え、実践している成果もあって、教職員の自己評価はA評価であり、生徒アンケートにおける人権教育に関する項目は、8割を超えている。
  - ・本校では今年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け実践を重ねている。今後もこれまでに培った手法を生かしながら人権教育に関する取組を継続していく。
- ◎ 環境教育
  - ・本年度の中間評価（自己評価）では、2項目ともにB評価であったが、各教科において、誰一人取り残さないSDGsの視点を生かした学習の実践を意識した授業を展開していることからA評価となったのではないかと。
- ◎ 事務・管理
  - ・教職員アンケート項目「学習環境の整備に努めている」において、5年前はC評価であったが、昨年度に引き続き、本年度もA評価となっている。事務室を中心としたGIGAスクール構想を踏まえた学習環境整備の成果が表れている。教育活動の充実のためにも、引き続き学習環境整備に取り組む。
- ◎ その他学校の取組
  - ・今年度は学校運営協議会（コミュニティ・スクール）導入2年目で、大変充実した協議会を開催することができ、開かれた学校づくりを進めることができたとともに、特色ある教育活動の充実に努力している。